



いづみ

No.60

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 30



《NEW BORN》

唐牛 幸史

(2 ページに「作者の言葉」)

羊蹄山麓一後志管内留寿都村黒田、旧黒田小学校に設置準備中のブロンズ彫刻。彫刻をきっかけとして、この場所を自然の扉を開く場にしようとしています。その第1作目。百年先、千年先の未来に贈るメッセージとなることに思いを込めつつ、現在作業を進めています。（唐牛幸史 1962年、札幌市生まれ、札幌市在住）

タイトル：《NEW BORN》
制作年：2016年
素材：ブロンズ
サイズ：W110×D110×H35 cm
設置場所：留寿都村黒田

新しい視点で

業務係長 垣内陽子

4月の人事異動で札幌彫刻美術館業務係長として着任いたしました。今年は例年より雪解けの進みが遅く、私が彫刻美術館にきた当初、敷地はすっかり雪で覆われ、庭園の野外彫刻は背の高い像の上半身は見えるもののまだまだ雪に埋もれていました。それからあっという間に2ヵ月余りが過ぎようとしています。雪かき作業はタンポポ摘みに変わり、野外彫刻は温かな陽光を浴びています。先日、友の会の皆さんが磨いてくださったおかげで、より一層輝き、彫刻も気持ち良さそうです。

彫刻美術館での私の最初の仕事は、6月14日まで開催した「アフリカの仮面と彫像」展の担当でした。右も左もわからない中、展覧会の開幕は3週間後に迫ります。幸いなことに、アフリカの美術、文化はすぐに私の好奇心を刺激してくれました。さっそく、友の会の勉強会に参加させていただくことにしました。そこで語られる内容はもちろんでしたが、私が何より感服したのは、友の会の皆さんの熱心な活動でした。

先述の彫刻清掃、アフリカ展友の会協力イベントであるウェルカム・トーク、会長ご夫妻の講演会など、この2ヵ月は友の会の活動に接する機会が多くありました。この場を借りて感謝申し上げます。

4月には、私のほかに2名の職員が配属となりました。小さな美術館なのでおよそ半分の職員が入れ替わったことになります。それぞれの今までの経験と新しい視点で、また違った美術館の魅力を引き出していきたいと考えております。



「彫刻家 父・田嶋碩朗のこと」

山崎貞子(田嶋碩朗 四女)

田嶋碩朗は東京芸術大学卒業後、東京・田端のアトリエで青森から九州の小倉までは100基以上、北海道から樺太までは60基以上の銅像を制作した。第二次世界大戦中の昭和19年(1944年)に、日本政府は国民に銅製品を強制的に供出させた。碩朗の銅像も殆んど壊されてしまった。田端のアトリエにあった作品はB29の空襲で焼失し灰と化した。碩朗が心血を注いで制作した作品は失われてしまった為、誠に不運な芸術家と言える。

札幌市民にお馴染み深い北大の「クラーク像」と大通西5丁目の「聖恩讃仰塔」について話を進めていきたいと思う。クラーク像制作の大正14年(1925年)頃の札幌には彫刻家は皆無だったので、北大は東京芸大を訪れて彫刻家の斡旋をお願いした所、学長は田嶋碩朗を推薦された。クラーク像制作に際し資料は前向きの写真しか無く、それまでは日本人像ばかりの制作だった。東京や横浜を歩き良く似た外国人を探した際に、早稲田大学教授のポーランド人に出逢い、モデルをして下さった。また、塑像が完成した時、大島正健北大教授は「まるで生きておられるようだ。」と威儀を正して深々と拝礼をなされた。碩朗は非常に感銘を受けて、自分自身を誇りに感じた。

大通公園にある聖恩讃仰塔の制作の由来は、明治政府が軍隊を設置して以来、陸軍大演習が行なわれて、昭和11年(1936年)は北海道で開催され、昭和天皇陛下が行幸なされた。札幌市は後世に伝えたいと記念

碑制作を碩朗に依頼した。「聖恩無疆」の題字は閑院宮殿下の揮毫なされたものである。その下の蘭龍王面は大歓喜を呼称し、左右の鬼面は護国を意味し、面の口より噴水が池に注がれている。完成まで2年を要し、雪にすっぽり覆われた時もあり、職人が怪我で通院した事もあった。材料の白花崗岩石は茨城産で、鉄道貨車12両で運ばれて来た。この年に札幌に水道が引かれ、四隅には水飲み場が設置された。現在のようなビル街はなく手稲連山が見えていた。池には真鯉や緋鯉が泳ぎ廻って、市民の良い憩いの場になっている。80年近く札幌市の歴史を眺めてきた塔と言える。

戦後、碩朗は札幌に移り、居間に座って小さな木彫を制作していて、私がモデルになった事もあった。謡の稽古の時はどう聞いても音痴で、そんな一面もあった。また、寸暇を惜しんで彫刻をしたが、子煩悩で嫁いだ長女、軍医だった長男、戦死した次男、早死した二女、三女、末っ子の私達の事は常に思っていた。

私は父の為に僅かの資料を元にして、縁の地を訪れた。写真を撮り、そこの沿革を調べ、碩朗を知る人々から話を聞き、文章や写真を頂いた。90歳の時に著書『彫刻家 田嶋碩朗』を書き上げた。出版した事で未知の作品が発見され、新事実も現れた。その因縁の深さに驚いた。作品は僅かで展覧会は出来ないが、この本が田嶋碩朗の展覧会となる事を願う。一人でも多くの方が観て下されば幸いである。

本郷新記念札幌彫刻美術館

「アフリカの仮面と彫像」展支援活動

ウェルカム・トークを終えて



高橋淑子（会員）

作品解説をする高橋さん

4月22日から6月14日まで彫刻美術館で開催された「アフリカの仮面と彫像」展一友の会会長の橋本信夫先生と奥様がアフリカ・リベリア滞在中に収集した作品が中心です。

この展覧会に先駆け、美術館の寺嶋弘道館長より、「せっかく会長のコレクション展をするのだから、友の会として何かお手伝いを」と持ちかけられました。寺嶋館長、樋泉綾子学芸員（当時）、友の会の奥井登代事務局長と2月末から話し合いを始め、展覧会を気軽に楽しんでいただく手助けになるような、友の会ならではのガイドを毎週土曜日にさせて頂くことになりました。堅苦しい内容ではなく、と言っても、間違っただけをお伝えしてはいけません。準備として、4回にわたってアフリカンアートの勉強をしました。コレクターである橋本夫妻と友の会の井尻哲男氏の話、展覧会開催前日の内覧会、そして実践を見据えてのリハーサルは学習会を中心に、担当者以外の参加も得て、回を重ねるごとに盛況に行われました。学習会には美術館から垣内陽子業務係長、樋泉学芸員そして4月から新任の山田のぞみ学芸員も参加、多くの資料提供を受けました。

美術館から「友の会会員のウェルカム・トーク」と素敵なネーミングをいただき、チラシにも案内が載り、4月29日、いよいよ本番初日です。たたき台として、初日を担当した私のウェル

カム・トークはゴールデンウィークと重なり、担当者の勉強会（というより冷やかしかるいはさくら？）もあり、大勢のお客様に参加いただきました。

通常的美術展と違い、作者、制作年等キャプションには書かれていませんが、実際にアフリカの地でお祭りや葬送儀礼に使われた作品は、実に魅力的で、紹介しやすかったです。例えば、呪術師の使った《薬壺》は中に入れる薬をどうしたら霊験あらたかに思わせるかという創意により、力を持った動物を寄せ集め、この世のものではない造形が生み出されています。そして中に入れる究極の薬は徳の高い知恵を持った人の灰…となると橋本先生の命も狙われかねません。このエピソードはお客様に喜ばれたものの一つ。

トークを行うのにほどよい広さの美術館、身近に感じられる作品たち、時には収集エピソードを交えた話に来館者の方々も笑顔で観覧してくれました。終わった時には安堵と達成感で感激ひとしお、寺嶋館長からの軽いハグの褒美も素直に受けられました。

期間中、会員が交代で務めたトークはあまり美術館へ足を運ばない人々の呼び水となりました。担当者それぞれの個性を生かしたトークがお客様に快く受け入れられた要因だったと思います。今後もこのような美術館支援を何らかの形で続けていけることを願っております。



サッポロビールの祖・村橋久成を大河ドラマに

副会長 大内 和

札幌市中央区、北海道知事公館西側の片隅に威厳を漂わせながらひっそりとたたずむ一人の男の胸像があるのをご存じだろうか。2004年、多くの道民の協賛を得て建立された北海道開拓使官吏、村橋久成の像だ。作者は日展顧問、中村晋也氏。その胸像主の半生を「北で燃えたサムライ村橋久成」としてNHKの大河ドラマにしようという動きが静かに進んでいる。

村橋久成と言っても意外と知られていない人物のようだ。村橋は1842年（天保13年）の生まれ。薩摩藩主島津家の一門の出で、ロンドン大学に留学、後に戊辰戦争に参加、箱館戦争では政府軍の軍監として榎本武揚らに恭順を勧めた人物。その後、開拓使出仕し、函館・七飯の農業試験場開設、琴似屯田兵村設営などに携わった。1876年（明治9年）には麦酒醸造人、中川清兵衛らを使って札幌に日本で最初の麦酒醸造所を創設した。現在のサッポロビールの生みの親とも言え、北海道産業の礎を築いた功績は大きい。

その村橋は開拓使廃止直前の1881年（明治14年）、突然辞表を出し、こつ然と札幌の地から姿を消した。開拓権少書記官という上位の官職を捨てた理由は分からないが、この時期、開拓使官有物払い下げ事件が一

大スキャンダルとなっており、同郷人で時の長官、黒田清隆に対する無言の抗議だったとの見方もある。

北の地から消息を絶った村橋は11年後、神戸市郊外で行き倒れとなって発見された。1892年（明治25年）10月、神戸の新聞に行路病者の死亡広告として掲載され。

この村橋の突然の死に触発されて、その生涯を小説「残響」として発表したのが札幌の作家、田中和夫さんだ。小説は1982年、第16回北海道新聞文学賞を受賞した。その年、「残響」のタイトルのままにブロンズ像が仕上げられ、鹿児島の中村美術館に収蔵された。2004年、制作者の意を受けて知事公館前庭に移設した。

その田中さんを中心に北海道で初めての大河ドラマ「北で燃えたサムライ 村橋久成」を北海道のビッグイベントとして誘致しようと動きが始まった。2019年は開拓使創置150年。北海道開拓初期の歴史を全国発信させようと、今春、大河ドラマを誘致する会が発足、高橋はるみ知事、秋元克広札幌市長を顧問に、北海道立文学館の木原直彦名誉館長を会長に北海道を舞台にした初めての大河ドラマ実現に意欲を燃やしている。村橋ファンの一人として夢の実現に期待したい。

友の会ニュース

彫刻美術館友の会 2017 年度総会開催

積極的な美術館支援活動など柱に 新年度の役員体制も決定



2017年度の活動計画などを決める札幌彫刻美術館友の会2017年度総会が5月13日、札幌・市民わくわくホリデーで開かれ、役員改選を含む全議案が満場一致で認められた。

総会には会員36人が出席、橋本信夫会長が「近年、会の活動が多くの分野で知られるようになり、存在感が増してきた。これから街角の美を守ろうをモットーに市民の中に活動の輪を広げて行こう」とあいさつ。猪股岩生さんを議長に選任、2016年度決算監査報告、同活動報告を異議なく承認、さらに2017年度活動計画案、同予算案も提案通り決定した。2年の任期を終えた役員改選を行い、新副会長に高橋大作さんを選んだほか、新たに6人を新役員に決定して＝別表＝総会を終えた。

新年度の特別活動として昨年に続く彫刻セミナーの第2弾として文化講演会「古代ギリシアのブロンズ彫刻」を5月28日に、さらに、札幌彫刻美術館で4月から開催中の橋本信夫・邦江コレクション「アフリカの仮面と彫像展」の美術館支援活動として会員による作品解説「ウエルカムトーク」を早速実施し、それぞれ成果を収めた。

ブルース・ダーリングさんが講演

「病院に吹く芸術の風—宇宙船と樹上の家」

元九州保健福祉大教授で常田益代会員の夫君、ブルースさんが総会後の講演を行い、病院の中に芸術を取り入れた欧州での視察結果を流暢な日本語で話した。

ブルースさんは昨年秋、英国のホスピタル・アートを視察。宇宙船の旅を思わせるような内装デザイン取り入れた子供病院の様子や公園の中に建てられた病院などをスライドで紹介した。また、大阪でも先駆的なアートプロジェクトの活動をしている病院を例に「病院の建物は医療を行うだけの箱ではなく、患者が元気を取り戻す助けとなるべきだ」と強調した。



友の会 2017 年度役員

(任期 2017 - 18 年度)

顧問 國松明日香
同 原子 修

会長 橋本 信夫
副会長 大内 和
高橋 大作 (新)

幹事・事務局担当

奥井 登代

幹事 長峯 慰子

松原 安男

猪股 岩生

高橋 淑子

佐藤美保子

常田 益代

細川 房子

岩崎恵美子

斉藤ミサヲ

船本のりえ

大関 元親 (新)

井尻 哲男 (新)

太田 雅人 (新)

押野記代子 (新)

監査 関堂 安司

園部亜佐子 (新)

会員証が新しくなりました

2014年に発行した友の会会員証の有効期限(2017年3月31日)が切れたため、新しい会員証を会報の発送と同時に同封しました。

会員証は彫刻美術館、芸術の森美術館の優待入場の際、必要になりますので、活用してください。

友の会の新年度2大イベントが大成功

「アフリカの仮面と彫像」展
文化講演会「古代ギリシアのブロンズ彫刻」

友の会が新年度早々に取り組んだ札幌彫刻美術館主催の友の会・橋本会長夫妻コレクション「アフリカの仮面と彫像」展への支援活動とイタリア海岸から引き揚げられた「リアーチェの戦士像」にまつわる「古代ギリシアのブロンズ彫刻」講演会が、いずれも多くの来場者を迎え、友の会活動の成果となった。



「アフリカのー」は4月22日から6月14日まで本郷新記念札幌彫刻美術館で開かれた。橋本夫妻が若き日、アフリカ滞在中に収集した異色のコレクションに友の会の井尻哲男さんのコレクション

にも加えた約60点が並べられた。

友の会としても同展を積極的に支援することとなり、日ごろの彫刻解説メンバーを中心に特訓を重ね、期間中7回にわたって7人が、出品作のガイドを担当、来館者に好評を得た（5ページに関連記事）。また、期間中、橋本夫妻がアフリカ滞在中の懐旧談を披露するなど会場を訪れた人に喜ばれた。

一方、文化講演「古代ギリシアのー」は道立近代美術館講堂を会場に5月28日に行われた。

古代ギリシアの彫刻が数千年後の現代に海底から引き揚げられ、修復されたというロマンあふれるテーマに予想以上の参加者を数えた。

ブロンズ像の調査、修復に関わった東京芸大の羽田康一さんが「ギリシア・ブロンズの制作技術」、彫刻家の松本隆さんが「ギリシア彫刻を知ろう！ リアーチェの戦士の再現制作」、後藤信夫さんが「アルテミーシオンの馬と少年から現代」と題して、それぞれスライドを使いながらギリシア彫刻の魅力について語った。修復された像の一部が会場に展示され、来館者が触れたりしながら古代のロマンに浸っていた。

**彫刻清掃活動始動**

手始めは美術館の本郷作品
《わだつみの像》など

新年度の友の会の彫刻清掃活動が始まり、5月21日、札幌彫刻美術館前庭の《わだつみの像》など3体を水洗いした。

この日は同館の山田のぞみ



学芸員ほか道立近代美術館の学芸員も参加、時折、通り雨に泣かされながらの作業。背の高い《わだつみの像》は手洗いでは届かず、ホースでの水洗い。さらに記念館前のブロンズ3体なども洗った。

**第2回本郷新彫刻賞に
札幌の加藤宏子さん**

第2回本郷新記念札幌彫刻賞の最終審査で加藤宏子さん（橋本会長の姪御さん）の作品「improvisation ～うけとめるかたち」が決まった。来年2月から3年間、大通交流拠点広場（地下鉄南北線大通駅コンコース）で展示される。

事務局日誌

▼3月7日＝市文化部和懇談(橋本、高橋大)▼9日＝定例役員会(アフリカ仮面展支援体制検討、古代ギリシアブロンズ彫刻講演会準備ほか)▼4月13日＝定例役員会(総会準備、野外彫刻新年度スケジュール調整)▼22日＝「アフリカの仮面と彫像」展開幕(彫刻美術館)▼28日＝会報「いずみ」59号発送▼5月11日＝定例役員会(総会議案協議)▼13日＝友の会総会(札幌・わくわくホリデーホール)▼28日＝文化講演会「古代ギリシアのブロンズ彫刻」開催(道立近美講堂)

編集後記

▼新年度は4月から始まった「アフリカの仮面と彫像」展、ギリシアブロンズ彫刻講演会と友の会関連の行事が連続した。気がかりだった来館者数はどちらも予想を上回る数字となった。会員の努力の結果でもある▼間に総会もあって、例年にない忙しい新年度のスタートになった。事情により予定原稿が間に合わず、埋め合わせのため、急きょ、拙文で差し替えた。汗顔の至り。(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.60

2017年7月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」60号 目次

自作自選30《NEW BORN》	唐牛幸史	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季30「新しい視点で」	垣内陽子	2
風見鶏「彫刻家 父・田嶋碩朗のこと」	山崎貞子	3
レポート「ウエルカムトークを終えて」	高橋淑子	4
寄稿「村橋久成をNHK大河ドラマに」	大内 和	5
友の会ニュース		6-7
2017年友の会総会、アフリカ仮面展、文化講演会開催／野外彫刻清掃始まる		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本 館

■子ども育成事業

「わくわく★アートスクール」作品展

6月27日[火]～7月17日[月]

アーティストと共に児童・生徒が制作した作品を美術館前庭に展示

■New Eyes2017 家族の肖像

7月22日[土]～10月1日[日]

北海道で活躍する作家たちによる立体、写真、映像などの作品で家族観を提示し、人が共に生きて行くことの意味を問う展覧会

記念館

■常設展「本郷新の人と芸術」

4月22日土～通年

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>